学校だより

第９号　ひたちなか市立勝倉小学校
令和７年６月１３日（金）発行
児童数　２９２名　　実家庭２２７戸

６月１２日（木）「命の授業　～ドリー夢メーカーと今を生きる～」
腰塚　勇人さん　をお迎えして

腰塚さんは、神奈川県の公立中学校の保健体育の教師として教育に熱く打ち込む日々を送っていましたが、36 歳の時スキーで大転倒をし、頚椎（首の骨）骨折という大ケガを負い、奇跡的に命はとりとめたものの全身が動かない深刻な麻痺状態となりました。あまりの絶望に毎日死ぬことばかり考えていましたが、ご家族や同僚、生徒、お医者さんや看護師さんなど周りの人達のおかげで絶望から希望へ心が再び動き始めたそうです。様々な紆余曲折を経ながらも自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること、命も体も自分だけのものではないことに気づき、懸命にリハビリを続け、４ヶ月で職場復帰を果たされました。復帰後は、身体の一部に障がいを抱えながら感謝と共に生きるようになったそうです。

現在、命の大切さ、生きていることの素晴らしさ・両親・家族・仲間の大切さなど、普段の生活の中で忘れかけている大切な幸せについて、また、誰かを照らす存在であることを「ドリー夢メーカー」を例えに講演や著書を通じて伝えていらっしゃいます。

子供たちは、事前に、腰塚さんが出演した「奇跡体験！アンビリバボー」の動画を見て当日を迎え、笑いあり、厳しい言葉ありのメリハリのあるお話に、声をあげて笑ったり、頷いたり、拍手をしたりしながら、聴いていました。途中、音楽にのった腰塚さんの映像が流れると、音楽に合わせ全校で大きな手拍子が起こりました。その様子は腰塚さんのＦＢにも紹介されています。

腰塚さんは、あえて麻痺の残るご自身のお体を隠さず、体験に基づいたお話をしてくださいました。そして、その中には、「苦しい時に【助けて】と言える大切さ」「命は自分だけのものではないこと」「言葉のもつ力」など、子供たちが自分自身と重ねて考えられる内容がたくさん盛り込まれていました。

ご家庭でも、よい機会とし、命の大切さについてお話していただけるとありがたく思います。

子供たちの感想を一部紹介します。

命のことを考えたことはあったけど、今日みたいに真剣に考えたことは初めてでした。　３年生Ｎさん

生きていてよかった、生まれてきてよかったと思いました。　４年生Ｎさん

私は、５つの誓いの「手足は人を助けるために使おう」が好きです。　４年生Ｏさん

Ｏリングが一番心に残っています。本当に言葉の力はすごいな、と思いました。　４年生Ｓさん

自分の気持ちが変わった気がする。　３年生Ｏさん

自分もだれかのドリー夢メーカーになりたいと思った。　６年Ｍさん

自分がされていやなことは人にぜったいにしない。１年生Ｓさん

「言葉は刃物にもなる」ということが心に残った。６年Ｉさん

すてきなことを知れてよかった。できないことをあきらめない。　１年生Ｆさん

目は人のよいところを見るために使っていきたいです。　２年生Ｋさん

また学校に来て話してほしい。　２年生Ｎさん

こんなにたいへんだったのにあきらめなかったのはすごいと思った。５年生Ｏさん

命を元気にする５つの誓いを生活にいかしたい。５年生Ｔさん

自分の中にも、ドリー夢メーカーやドリー夢キラーが絶対いると思った。　６年生Ｋさん

困っている人や助けが必要な人がいたら、自分の目、口、耳、体で助けたいと思った。　６年生Ｈさん

命はだれかのものであることを頭に入れて生活したい。　６年生Ｔさん